


## 事業実績書

|      |  |
|------|--|
| 事業名  | 自助グループを形成し地域福祉を共に考える事業   |
| 場所   | 沼津市 原地内他   |
| 期間   | 平成29年1月12日 ~ 平成29年3月31日  |
|      | 日程   |
| 事業内容 | <p style="text-align: center;">実施項目・作業項目</p> <p>地域のつながりを広げ、困りごとを無くしていくための2つの取り組みを行った</p> <p><b>1. 自助グループのワークショップ</b></p> <p>「引きこもりやニートの子どもを抱える家族」「発達障害、個性の強い子を持つ家族」を中心に、同じ悩みを持つものが集まって話すことで、専門家に頼らずに気づきなどを得て立ち直り回復していくピアカウンセリングの手法を用いた自助グループのワークショップを開催した。</p> <p>A) 対象／働きたいけど働けない子どもを持つ家族（ニートひきこもり）</p> <p>① 日時／1月29日、3月12日 15時～17時</p> <p>② 参加者数／1月（6名）3月（5名）</p> <p>③ 会場／カフェフラン</p> <p>B) 対象／発達障害、個性の強い子を持つ家族</p> <p>① 日時／1月31日、3月9日 10時～12時</p> <p>② 参加者数／1月（4名）3月（6名）</p> <p>③ 会場／サポぬま原基地（株大心産業内）</p> |
|      | <p><b>2. 講演会の開催</b></p> <p>悩みや困りごとを持つ家族が共依存に陥り、精神バランスを崩し、当事者も家族も就労することが困難となり、生活困窮につながるケースが多いため、NPO 法人青少年就労支援ネットワーク静岡と協力し、課題解決のきっかけ作りとなるための講演会を行った。</p> <p>① 演題／藤井先生から先進事例を学んで地域のつながりを広げよう！</p> <p>② 講師／立教大学 藤井敦史教授(福祉コミュニティ学部)</p> <p>③ 日時／2月16日（木）13時30分～16時</p> <p>④ 会場／原地区センター</p> <p>⑤ 参加者数／22名（地域福祉関係者・自助グループ参加者・原地区住民他）</p> <p>⑥ 参加費用／¥500</p>   |



|         |  |   |
|---------|--|---|
|         |  | <p>講演会に先立ち、サポぬまメンバーと NPO 法人青少年就労支援ネットワーク静岡の職員とともに午前10時～12時サンウェル沼津及びサポぬま原基地にて藤井先生とコーディネータの静岡県立大学津富宏教授に生活困窮者自立相談支援の利用者の多い原地区について、地域課題や現状を伝え、今後の取り組みへのアドバイスなどを頂いた。</p> <p>3月10日、藤井教授主催による事例提供いただいたイギリス、アカウント3の代表来日に伴う学習会に参加、課題解決につなげるための住民主体のワークショップの手法を学んだ。</p>    |
| 事業効果    |  | <p>去年よりニートひきこもりの子を持つ家族を対象としてピアカウンセリングを行うグループを運営してきた。本年より、ニートひきこもりや、不登校に至った理由が多い、発達障害、個性の強い子を対象とした家族の自助グループを形成した。それぞれ事業期間中2回ずつワークショップを開催し、参加者は、当事者同士で話すことの大切さを理解し、今後も継続参加予定である。</p> <p>ルールさえ守れば、いつでもどこでも安心安全な話せる場を誰もが運営出来ることを理解していただいた結果、参加者により、自発的に自助グループを作ることとなり、他地域で開催することとなった。</p> <p>藤井先生の講演会では、女性問題に特化した社会的企業の取り組みを紹介していただき、福祉課題は住民からの声を住民主体で取りまとめ問題解決していく必要性を教えていただいた。市民が行政に頼るだけでなく、自ら解決を図る方法を模索することが大切であると参加者とともに考えた。</p> <p>後日藤井先生よりワークショップの方法を教えていただく機会を頂き、地域福祉における住民組織化の理解を深めることが出来た。</p> |
| 今後の活動予定 |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在行っている自助グループはそれぞれ月に1回程度開催する。</li> <li>● 新たな自助グループ形成と運営のサポートも行っており、相互サポートできるように組織化を図っていく。</li> <li>● 原地区を中心として地域や福祉課題について学習会を定期的に行っており、ボランティアサポーターや自治会や民生員・地域住民とともにさらに拡大した支援コミュニティを形成する。</li> <li>● サポぬまメンバーを増やし、様々な手法で問題解決を図っていくことができる地域で活躍できるコミュニティーオーガナイザーを育成し、ワークショップの手法等も研究し、地域課題について住民の声を吸い上げていけるよう、ファシリテーターの育成も行っていく。</li> </ul>  |
| 自己評価    |  | <p>講演会については告知時間が少なく地域の民生員や地区社協、自治会関係者への周知が広がらなかった。今後は2か月前に周知活動を行い、講演会の参加を呼びかけていきたい。</p> <p>自助グループについては、すでに様々な会に参加している方からは当事者運営だけでは難しいことなどを懸念されたが、活動を続け広げるためには定期的な学習会と、いつでもどこでも誰もが参加できる場が必要であり、またグループ同士のつながりが必要であると考え、多様なグループと関わることを求められている。また、専門家へ繋げることも必要な場合もあるため、今後も地域福祉を考え青少年就労支援ネットワーク静岡と共に、地域づくりを行っていきたい。</p>  |